

第 66 回 定時株主総会 質疑応答(要旨)

事前に当社ウェブサイトにてお受けしたご質問への回答 <趣旨が重複する質問は取りまとめて回答>	
1	Q 株価についての見解を教えてください。
	A 株価については、事業成長による目標達成が最重要課題だと認識しており、ZGP2030の各施策を着実に推進することで、株価の裏付けとなる業績を伸長させるとともに、株主還元も積極的に実行していく。さらに、情報開示や IR 活動も充実させ、株主の皆さまの期待に応えられるよう、役職員一同、精進する。
2	Q 新しい商品・サービスの展開など、業績向上に向けた取り組みについて教えてください。
	A 新サービスである「ZENRIN Maps Studio」は、顧客の要望に対応できるセミオーダー型サービスのプラットフォームとして開発し、2026年5月から提供を開始している。今後は、このプラットフォームを基盤に、業界・地域のニーズに対応した様々なコンテンツや機能を拡張することで、業績拡大に取り組んでいく。 ZENRIN Maps Studioはこちら > ZENRIN Maps Studio 株式会社ゼンリン
3	Q 地図の精度について教えてください。
	A 現在、当社は空間情報の位置精度の向上に取り組んでいる。デジタルツイン社会の実現等により、システム上で利用されることを前提とした、より位置精度の高い空間情報が求められるようになってきている。そのため当社では、従来からの調査員による現地調査に加え、衛星画像の活用や、高精度センサーを搭載した車両による走行調査等、新しい調査手法を取り入れて、地図精度の向上に取り組んでいる。
株主総会当日に会場でお受けした質問への回答	
1	Q 事前質問の回答で衛星画像を使用しているとのことだが、改めて地図の品質についての見解を伺いたい。
	A 従来からの調査員による現地調査では、人の解釈が入るため、航空写真や衛星画像を活用した、位置精度向上に取り組んでいる。また、変化を検知し、その変化に対してピンポイントで調査を行うほか、人による転記ミス等を減らすため、調査員による調査も紙面からデジタル調査端末に切り替えるなど、DX化を推進しながら、引き続き品質向上を図り、顧客へ価値を提供していく。
2	Q 社内での AI 活用及び地図情報に対する AI ニーズへのアプローチについて教えてください。カーナビゲーションや自動運転についての将来展望を聞かせて欲しい。
	A AI活用についても積極的に取り組んでおり、地図制作においてAIを活用して自動化を推進し、整備の効率化を図っている。また、当社研究開発部門と子会社を統合したゼンリンジオ技術研究所において、AIを用いて競争力のある高度時空間データベースを構築する研究チームを立ち上げている。さらに、構築したデータの顧客への提供についても、ゼンリン及びゼンリンデータコムサービスも含めAIを活用した最適なサービス提供の実現可能性を検証していく。加えて、第66期に業務DX推進部を立ち上げ、AI活用を含めたDXによる社内効率化も推進している。最後に、自動運転についても、Mobility based Network※ など自動運転に寄与するデータやサービスの推進にも注力し、早期の成果公表に向けて取り組んでいく。 ※ Mobility based Network:時空間データベースから生成される、モビリティに最適化されたネットワークデータモデル